企業名：　三菱ケミカルホールディングス

レポート名：　KAITEKI レポート 2021

1.　この会社が目指す姿が理解できるか

MCH グループをネクストレベルまで成長させるとあるがネクストレベルがどういったものなのかが具体的にかかれていなかった。また、その分野の中での勝者になるとの記載があったが、勝者の意味も明示されていなかったため完全な理解は難しかった。しかし、そのための行動が具体的に書かれていた点はよかったし理解の手助けにもなった。

「理想」として世界の人々の健康と地球環境への貢献など、人、社会、地球の心地よさを追求する呼びかけというものがあったが、それが本当にこの会社の目指す姿であるのかは少し疑問を持った。のちの文章をしっかり読むとそうなのかと思ったものの、これが目指す姿と聞くと本当にこれが目指す姿なのか…？と思ってしまう部分はある。もう一つの「必然性」についての低炭素社会へ適応し、よりクリーンな企業へ変革するということの方が会社が目指す姿としては理解しやすかった。

目指す姿に向けての成長を財務資本・製造資本・知的資本・人的資本・社会関係資本・自然資本に分けて分析していたのは非常にわかりやすかった。何が必要なのか、今のそれの状態がわかりやすく書かれており理解できた。しかし、目指す姿を達成するにあたっての項目が６つしかないのは多少違和感があったため、項目を増やしたり、良くなってる・足りているものだけでなく他のことも分析できていればよかったと思う。

2.　この会社の競争優位性が理解できるか

多様な基盤技術を有しており、高度化・複雑化したプラントを安全、安定的に稼働し、高品質な製品を生み出していることが市場競争力を高めているとしている。独自技術を複数持った企業が集まっているため、競争優位性は十分にあると読み取れる。しかし、このところ売上高が変わらないどころかかなり下がっている点が気になる。コロナ禍であったため仕方ないとは思うが、何かしらの対策や新しいものの開発が必要である。しかしこの点でいうと、コロナ禍における影響や対策が具体的に講じられていたのと、施策と成果が細かく分析されていたため対応に関してはそれが実行できていれば問題ないと思う。

3.　その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

総合化学メーカーとして長い時間をかけて蓄積し、確立してきたものなので持続性はあると考えられる。しかし他企業もそのような技術はこれから身に着けてくることが予想されるため、新たな技術や製品の開発が必要になってくるだろう。それを施策として挙げてみるのもありなのではないかと思った。

財務資本の項目からわかるように、強固な財務基盤を持っており、資産合計も多い。これは競争優位性を持続するためにマストなことである。また、様々なシステムを導入して人材の育成に力を入れており、これからの創造に必要な人的資産も十分にいると考えられる。そのため、これからも成長を続けていけば、競争優位性の持続性に問題はないと言えるのではないかと思う。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

多様な個の力を引き出すことを重視しており、「会社と従業員が互いに選び、活かしあう関係、共に成長していく文化」、「主体的なキャリア作成」、「透明性のある処遇・報酬」を施策としているが、これがきちんと行われているならば文句なしである。従業員の挑戦を支援すると同時に、職務内容と成果で報酬を決めるというやり方は、従業員のやる気を引き出し、モチベーションを保つことができるに違いない。難しい話かもしれないが、成果をあまり出していない従業員への対応が悪くなければとても良い。勤務年数にも一切よらず、成果のみでの判断とあったので、少し怖いなと思う部分はある。しかし、グローバルに活躍するためにはこのやり方が適切だと考える。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

全体的には具体的に書かれており、様々な観点で分けて分析をしたり書いてあったりしたのでわかりやすかった。しかし、実際にどんなことを目標として、目指す姿としてやっているのかが少々わかりにくいのではないかと思ってしまうことがあった。それを実現するためのことや、改善するためにすべきことは詳しく書いてあったため、それをわかりやすく書けばとても良いものであると思う。